

# 平成 28 年度 第 3 回 IDPT 会議「議事録」

開催日時：平成 29 年 2 月 18 日(土) 午後 5 時 00 分～6 時 00 分

場所：高尾台町会 会館

出席者：13 名出席

記録者：勝裕

## 議事録

### ◆協議事項

#### 1、平成 29 年度年間スケジュールの件（スケジュール表参照）

- ・平成 29 年度第 1 回 IDPT 会議 4 月 1 日(土) 17:30～18:45 で開催予定

同日に新旧役員懇親会が 19:00 から「野ふうど」開催故、その前の時間帯で開催する。

- ・向こう三軒両隣防災懇談会について

第 1 回目 6 月 11 日(日)

第 2 回目 8 月 27 日(日)

第 3 回目 10 月 22 日(日) で開催

班長は出席必須、第 1 回目が 1 丁目班長、第 2 回目は 2 丁目班長、第 3 回目は 3 丁目班長でどうか？

→1 回目から 3 回目の開催まで期間が 6 ヶ月あり、これだけの期間が空くのならば、1 回目にすべての班長に集まってもらったほうが良いのでは。

結論：1 回目にすべての丁目の班長に集まってもらい自主防災組織の経緯、活動計画を説明し理解頂くことが先決。その上で、今年度事業の「向こう三軒両隣り」(案)に対し意見を聞く流れで行う。

1 回目の意見を 7 月 1 日(土)の第 2 回 IDPT 会議にて検討し、2 回目の内容を決定する。以降、2 回目実施後、第 3 回 IDPT 会議で 2 回目の反応を精査し 3 回目の内容に繋げる流れで事業運営する。

- ・自主防災組織を周知頂く方法に関して意見交換を実施した

バーベキュー打ち合わせを利用しては？ → バーベキューに集中し、それどころではないのでは班長(役員)の引継ぎ日にも自主防災組織の話を知する (2 月 29 日に永山氏が実際に説明を実施)

- ・11 月開催予定 4 町会合同防災訓練について

平成 26,28 年度 11 月開催は寒すぎ。防災の日 9 月 1 日を軸に開催する案を伏見台防災会に提案する。

#### 2、担当長選出の件（次回決定とするも、総会報告の関係から永山氏にて決定頂き総会で報告済み）

- ・5 分野担当長について（組織図参照）

総務担当、情報担当、救出救護担当、食料物資担当、出動担当

以上の 5 分野担当長は、経験を積み重ね習熟度を高めることが重要であることから IDPT メンバーから選出する。一方、毎年見直される伏見台校下防災会は、17 町会連合会の一員である高尾台町会が担う役割である。よって従前通り町会から 1 年乃至 2 年任期で町会役員又は町会長が指名する町会々員から選出し、伏見台校下防災会の高尾台町会として連携して活動する。

#### 3、防災士資格者育成の件

平成 29 年度は、IDPT メンバー内で男女各 1 名、2 名の防災士資格取得者を確保したい

6 月には、資格取得を目指す候補として、積極的に手を挙げて頂きたい。

まずは、各丁目に資格取得者男女各 1 名が最低限存在することを目指し、育成を図っていききたい。

#### 4、報告事項

- ・平成 29 年度事業計画の件  
報告を受ける（配布資料産参照）
- ・平成 29 年度事業予算(案)

防災備品購入費について→今年度購入予定品は、訓練の中で必要とする物の購入に5万円を計上している。これとは別に水消火器訓練費用3万円を計上している。両者は防災訓練に関わる支出であることから、予算上は合算し、防災訓練費として8万円の計上に修正する。尚、防災備品に関しては、まず現在所有する備品の棚卸にて内容把握を行いたい。その上で、原点に戻り、何を備品として防災倉庫に備蓄すべきか調査し、年度毎に順次備える計画を立て、防災会実行委員会にて検討し予算計上を役員会に図る運営プロセスを確立することを今年度の目標とする。

#### 5、ビデオ鑑賞

「稲むらの火」

#### 6、その他 意見交換

- ・避難所ではトイレが一番困る 高尾台町会でも簡易トイレはあるのか？  
→ 町会でも数個確保している 正確な数の把握が必要だ
- ・高尾台付近のハザードマップはあるのか？  
→ 金沢市が校下単位に毎年出し町会にも送られて来ており、町会ホーム・ページで開示している。
- ・森本・富樫断層に関する資料はないのか？  
石川県土木部が、地質調査を行った調査結果が、開示されている。但し、それぞれの宅地に対して断層がどの方向からどの方向に伸びているのかという詳細を示すものでは無い。あくまで、地表に出ている露頭と一部ボーリング調査を行った結果である。まずは、防災会で「知る」ことから始めるべき。
- ・災害は突然起こるもの 実際の体験談も聞けると良いが  
→ 能登の地震の時に感じたこと 本震の後の余震が怖い 瓦屋根が多くブルーシートが必需品  
地震発生直後は玄関で戸を開けて外の様子を見ること 慌てて飛び出してはいけない  
→IDPT メンバーの長谷川夫人は、阪神淡路大震災の体験者であり、ご本人からも伝えたいことがあるという旨伺っている。防災会事業の中で具体的に考えてゆきたい。
- ・これまで、自分の身の回りのことも、いざという時の行動基準もわからないままになっている。そのための組織改正であった。具体的かつ系統的に、すすめてゆきたい。

以上